



令和5年度 基本評価調書		所管部局	環境生活部	所管課	自然環境課、野生動物対策課		
施策名	野生動物等の適正な管理			施策コード	0302		
政策体系(中項目)	豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承			政策体系コード	1(3)B		
関連重点戦略計画等	知事公約 北海道創生総合戦略 北海道強靱化計画 北海道Society5.0推進計画					事務事業数	18
特定分野別計画	北海道環境基本計画						
SDGs	 			総合判定	遅れている		
予算額(千円)	R 5	460,088千円	R 4	421,561千円	R 3	315,374千円	

施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカなど増えすぎた野生鳥獣やアライグマなどの外来種の適正管理を行い、被害防止対策に取り組む。 ・エゾシカ肉を道産ジビエとしてブランド化するなど地域資源としての有効活用に取組む。
現状と課題	<p>(適正管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急増したエゾシカの他、ヒグマやアザラシなどの野生鳥獣、人為的に持ち込まれた外来種の分布拡大は、農林水産業への被害や人への危害の発生だけでなく、本道の生物多様性の保全にも悪影響を与えるなど、大きな脅威となっており、適正な個体数管理や外来種の防除などの取組を推進する必要がある。 <p>(有効活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本道固有の地域資源であるエゾシカの有する多面的な価値を最大限発揮させるため、道産ジビエとしてのエゾシカ肉のブランド化に向けた取組などにより、有効活用の一層の推進を図ることが必要である。
前年度二次評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画に掲げる、人と自然・生き物が共生する社会づくりの推進のため、野生鳥獣の適正な個体数管理や外来種の防除などが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。 ・ヒグマ対策について、室設置による効果的・効率的な執行体制の構築を進めること。
対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカ捕獲推進プランと市町村の被害防止計画との整合を図り、引き続き、指標の達成に向けた取組を推進。北海道エゾシカ管理計画期間中(第6期)において必要な捕獲数を明示し、令和5年度以降の目標を積み増し捕獲推進を図ることとしている。 また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施するほか、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRする。 ・引き続き、機動的な対応体制を維持するとともに、市町村や警察など関係機関との連携強化を図り、道民の安全確保のため各種対策を推進する。

〈主な取組〉

今年度の取組	<p>(適正管理)</p> <p>エゾシカ対策については、管理計画等に基づく捕獲の推進、捕獲手法の普及促進を行う。ヒグマ対策については、人身被害防止に向けた普及啓発、出没個体への対応を行い、また、アザラシ対策は生息数等モニタリング、有効な捕獲手法の検討、アザラシ管理検討会を実施し、希少種や外来種の条例指定種のモニタリング及び分布状況の情報収集を実施する。</p> <p>(有効活用)</p> <p>「道認証エゾシカ肉」を軸に一層のブランド化を推進し、流通・消費拡大を図り、認証取得施設数を増加させる。</p>
実績と成果	<p>(適正管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカ管理計画(第6期)に基づき、「捕獲推進プラン」と国の鳥獣対策交付金事業に係る市町村被害防止計画の捕獲目標の整合性を図り、実効性を高めている。 ・担い手確保に向け、狩猟免許試験の実施回数を増やし、免許取得をサポートする出前教室や将来地域の捕獲の中心的役割を果たすハンターの育成を目的とした捕獲技術講習を実施。(H27、H30、R1、R2、十勝管内) ・ヒグマシンポジウムを開催(R4.8.20)し、多くの道民や来道者に対して、ヒグマについて正しい知識の普及啓発に努め、出席者の8割以上からヒグマのことが分かったとの評価が得られた。 ・北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業により、解決困難な事案に対し専門家を派遣し問題個体の捕獲や対応策の助言等を行った。(R5年度:4件) ・R4年度におけるアザラシの生息数等モニタリングについては、夏期確認個体数は、520であり、H27年(基準年)の1,413の半分以下となった。有効な捕獲手法については、空気銃での捕獲の検討を実施。アザラシ管理検討会は2回実施。 <p>(有効活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカ出前講座等の開催、イベント出展等による利用機会拡大の取組を実施。エゾシカ肉処理施設の認証施設数は増加傾向にある。(R2 15件、R3 16件、R4 17件、R5(8.1時点) 18件) <p>また、出前講座の参加者からのアンケートではエゾシカ肉を今後も食べてみたいとの回答が9割あった。</p>
参考HP①	北海道鳥獣保護管理事業計画 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/tyojukeikaku.html
参考HP②	北海道ヒグマ管理計画 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/higuma/higuma.html
参考HP③	北海道アザラシ管理計画 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/azarashikeikaku.html 北海道エゾシカ管理計画 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/est/ezosikakannrikeikaku.html

令和5年度 基本評価調査

【1(3)B_0302】野生動物等の適正な管理

〈指標分析〉 ⇒ 成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	減少	相対値	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（東部地域～オホ、十勝、釧路、根室）	目標値		45	38	70	56	51.1%	D
	実績値		114	125	137.0			

設定理由

基準年(H23年度)を100とし毎年のエゾシカ生息動向を相対的に示す数値であり、エゾシカの適正管理に係る取組成果を測る指標として設定。R4.3月策定のエゾシカ管理計画(第6期)で基準年度と目標値を変更。R3以前の目標値は前計画から第6期基準に換算。

指標公表時期

毎年概ね7～8月公表

出典（根拠計画等）

エゾシカ対策有識者会議による推計

分析（主な取組と成果）

捕獲推進プランより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が保護を実施。近年の少雪や新型コロナウイルスの影響などで、道内（東部地域）の捕獲数は減少しており、令和4年度も個体数指数は増加となっている。

指標名②	減少	相対値	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（北部地域～空知、上川、留萌、宗谷）	目標値		60	56	96	90	79.3%	D
	実績値		108	115	121.0			

設定理由

基準年(H23年度)を100とし毎年のエゾシカ生息動向を相対的に示す数値であり、エゾシカの適正管理に係る取組成果を測る指標として設定。R4.3月策定のエゾシカ管理計画(第6期)で基準年度と目標値を変更。R3以前の目標値は前計画から第6期基準に換算。

指標公表時期

毎年概ね7～8月公表

出典（根拠計画等）

エゾシカ対策有識者会議による推計

分析（主な取組と成果）

捕獲推進プランより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が保護を実施。近年の少雪や新型コロナウイルスの影響などで、道内（北部地域）の捕獲数は減少しており、令和4年度も個体数指数は増加となっている。

指標名③	減少	相対値	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（中部地域～石狩、胆振、日高）	目標値		60	56	96	90	89.7%	C
	実績値		97	104	107.0			

設定理由

基準年(H23年度)を100とし毎年のエゾシカ生息動向を相対的に示す数値であり、エゾシカの適正管理に係る取組成果を測る指標として設定。R4.3月策定のエゾシカ管理計画(第6期)で基準年度と目標値を変更。R3以前の目標値は前計画から第6期基準に換算。

指標公表時期

毎年概ね7～8月公表

出典（根拠計画等）

エゾシカ対策有識者会議による推計

分析（主な取組と成果）

捕獲推進プランより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が保護を実施。近年の少雪や新型コロナウイルスの影響などで、道内（中部地域）の捕獲数は減少しており、令和4年度も個体数指数は増加となっている。

指標名④	増加	施設	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ肉処理の認証施設数	目標値		18	20	20	22	85.0%	C
	実績値		15	16	17			

設定理由

道認証エゾシカ肉の生産体制強化の取組状況を表す数値であり、エゾシカ肉の有効活用の促進に係る取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期

毎年4月公表

出典（根拠計画等）

第2期北海道創生総合戦略

分析（主な取組と成果）

PRが功を奏してエゾシカ肉（認証肉）の認知度向上から地域における需要の高まりを受けて、施設数の増加となっている。

指標名⑤	増加	頭	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
認証施設の食肉処理頭数	目標値		15,000	15,000	16,000	20,000	78.3%	D
	実績値		12,568	12,318	12,528.0			

設定理由

道認証エゾシカ肉の生産体制強化の取組状況を表す数値であり、エゾシカ肉の有効活用の促進に係る取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期

毎年概ね10月公表

出典（根拠計画等）

第2期北海道創生総合戦略

分析（主な取組と成果）

PRが功を奏してエゾシカ肉（認証肉）の認知度向上から地域における需要の高まりを受けて、食肉処理頭数の増加となっている。

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) 人身被害を未然に防止するため、ヒグマ出没時における情報の共有、周知について関係機関との連携を一層進めていく必要がある。
	(取組) ・市街地周辺に出没した際には、市町村や警察と連携し、Yahoo防災を活用した情報発信を行っているほか、人身事故の発生が懸念される場合には「ヒグマ注意報等」を発出し、道民や来道者に対して注意を促している。 ・エゾシカ肉処理施設認証制度については、保健福祉部と連携し、食肉処理施設での現地審査及び定期的現地確認を行うことで、当該部局より食品衛生に関する技術的助言を受けている。
緊急性 優先性	(課題) 近年、市街地やその周辺でヒグマの出没が頻発しており、地域における対応力の強化が求められている。
	(取組) ・地域において総合的なヒグマの保護管理の担い手の育成を目的として、市町村職員、振興局職員、警察官を対象に研修会を開催し、市街地出没を想定した机上訓練を実施。(R4:延べ8回実施し、計161名参加) ・エゾシカ肉の有効活用の促進については、「北海道エゾシカ対策推進条例」で道の責務として定められているところ。また、当該促進については、各地方の期成会より直近の要望として受けているところ。(R4年11月)

〈取組分析（その他の統計数値等）〉

成果指標で課題への対応を説明済

統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
野生鳥獣による農林業被害金額	5,034百万円 (R2)	4,702百万円 (R1)	5,449百万円 (R3)
分析等			
(課題) 道内におけるエゾシカの生息数の増加及び生息域の拡大に伴い農林業及び生活環境に係る被害、生物の多様性に及ぼす影響等が深刻化しており、適正な個体数管理を推進する必要がある。			
(分析等) ・野生鳥獣による被害金額は54億5千万円で、前年度に比べ4億1千万円増加している。(対前年比 8%増加) ・農林業被害では、全体の8割がエゾシカによるものであり、国の交付金等を活用し捕獲活動や侵入防止策の整備など総合的な対策により、被害金額は、平成23年度の64億円をピークに年々減少し、現在は3割程度減少しているが、令和3年度は令和2年度に比べ増加し、44億8千万円となった。			C
統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
(課題)			
(分析等)			
統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
(課題)			
(分析等)			

〈総合判定〉

指標判定	D	連携状況	○	総合判定	遅れている
		緊急性・優先性	○		
		その他の統計数値等	c		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

(エゾシカ個体数指数(東部地域～オホ、十勝、釧路、根室)、エゾシカ個体数指数(北部地域～空知、上川、留萌、宗

翌年度に向けた 対応方針	対応方針番号	内容
	①	エゾシカ捕獲推進プランと市町村の被害防止計画との整合を図り、引き続き指標の達成に向けた取組を推進。北海道エゾシカ管理計画期間中(第6期)において必要な捕獲数を明示し、令和6年度以降の目標を積み増しし、捕獲推進を図る。
	②	安全・安心なエゾシカ肉の流通拡大を図るため、「エゾシカフェア」などのイベントの他、SNSを活用した情報発信等により、認知度向上や消費拡大に取り組むとともに、引き続き認証施設数の増加を推進する。
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策 評価	<p>【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、人と自然・生き物が共生する社会づくりのため、急増したエゾシカの適正な個体数管理や道産ジビエとしてのブランド化といった地域資源としての有効活用が重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。</p>
	<p>【施策の緊急性・優先性】 ヒグマ対策について、効果的・効率的な執行体制の見直しを行うこと。</p>

令和5年度 事務事業評価調書				施策名	野生動物等の適正な管理	施策コード	0302
----------------	--	--	--	-----	-------------	-------	------

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度からの 繰越事業費 (千円)	事業費 (千円)	執行体制			フル コスト (千円)	一次政策評価		二次政策評価意見	
								うち 一般財源	本庁	出先機関		人工計	対応 方針 番号		方向性
0534		一般	生物多様性保全推進事業費	北海道における生物多様性保全に係る取組を推進する業務 生物の多様性の保全等に関する条例に基づく絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策のための業務 外来種による本道の生態系への悪影響を防止するために行う検討会等の業務	自然環境課	0	4,323	4,023	3.2	3.9	7.1	59,987			
0515		一般	動物愛護管理対策推進費	動物愛護法等に基づき、動物の適正な飼養及び取扱いの推進に関する業務	自然環境課	0	13,880	9,447	1.6	21.1	22.7	191,848			
0516		一般	鳥獣保護対策推進費	鳥獣保護法に基づく適正な野生鳥獣の保護管理のための業務	野生動物対策課	0	996	996	0.7	2.9	3.6	29,220			
0517		一般	鳥獣保護対策推進費(アザラン分)	漁業被害の軽減とアザラン類の共存のため、定着個体の削減、有効な捕獲手法の確立など、アザラン類の適正な個体数管理を推進するための業務	野生動物対策課	0	5,315	0	0.9	0.0	0.9	12,371			
0518		一般	ヒグマ対策推進費	ヒグマによるあつれきの軽減及びヒグマ地域個体群の存続の両立を図るため、適正なヒグマ保護管理を推進するための業務	野生動物対策課	0	43,632	25,681	4.5	16.0	20.5	204,352			【施策の緊急性・優先性・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0520		一般	高病原性鳥インフルエンザ対策事業費	道内の野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染防止を図るため、関係機関と連携した渡り鳥の飛来状況巡視、死亡野鳥の回収・検査を実施	野生動物対策課	0	1,226	1,226	0.3	0.9	1.2	10,634			
0521		一般	狩猟免許事務費	狩猟免許試験、狩猟免許更新講習及び狩猟者登録に係る業務 狩猟者による事故の未然防止のための指導・取締りに関する業務	野生動物対策課	0	19,797	0	0.6	9.8	10.4	101,333			
0523		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ対策推進費)	エゾシカの被害低減を図るため、エゾシカ管理計画(第6期)に基づき、エゾシカの個体数の適正管理を行う(有識者会議の開催、ライトセンサス調査等)	野生動物対策課	0	10,122	10,122	1.1	4.9	6.0	57,162	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0524		事務	狩猟及び有害駆除の促進に係る事務	鳥獣保護法に基づくエゾシカ個体数の適正管理のための業務・鳥獣法運用・エゾシカ規制・適正捕獲普及啓発・捕獲上積みのための市町村捕獲事業への助成・各振興局に配置した対策チームによる地域支援を行う事業	野生動物対策課	0	0	0	1.6	8.1	9.7	76,048	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0525		事務	エゾシカの有効活用に関する事務	エゾシカ肉の消費拡大を図る「シカの日」の定着促進や食肉以外の部位の利活用など、エゾシカ捕獲後の有効活用を推進	野生動物対策課	0	0	0	1.5	0.7	2.2	17,248	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0526		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業費)	北海道エゾシカ管理計画(第6期)目標達成のため、道指定鳥獣保護区等において関係機関と連携した捕獲事業等を実施する	野生動物対策課	0	105,607	24,365	0.9	2.3	3.2	130,695	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0528		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ有効活用推進事業費)	認証制度の運用や認証取得の推進、家庭、レストラン及び革製品等の様々な場面におけるエゾシカの利活用機会拡大	野生動物対策課	0	6,807	0	0.2	0.0	0.2	8,375	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0529		一般	「稼ぐジビエ」マーケティングモデル創出事業費(創生交付金)	安全・安心なエゾシカ肉の流通拡大を図るため、認証施設の強みを活かした事業展開及びブランディングに向けた取組を実施	野生動物対策課	0	10,085	5,043	0.8	0.0	0.8	16,357	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0530		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカジビエ利用拡大推進等事業費)	エゾシカジビエの利用拡大を図るため、捕獲個体の食肉処理施設への搬入経費等の支援を実施	野生動物対策課	0	92,470	0	0.9	0.0	0.9	99,526	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0531		一般	アライグマ対策推進費	アライグマ対策の最終目的である本道からの排除の達成に向け、アライグマ捕獲技術向上などの取組を実施する	野生動物対策課	0	7,455	3,079	0.5	2.8	3.3	33,327			
0532		一般	ICTを活用したヒグマに強い地域づくり実証モデル事業費	ヒグマによるあつれきに対処するため、ICTを活用した生息実態の把握、出没抑制対策に有効な手法・技術を総合的に検討検証するための業務	野生動物対策課	0	22,942	20,693	0.0	0.0	0.0	22,942			

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度からの 繰越事業費 (千円)	事業費 (千円)	執行体制			フル コスト (千円)	一次政策評価		二次政策評価意見	
								うち 一般財源	本庁	出先機関		人工計	対応 方針 番号		方向性
0533		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ捕獲困難地対策事業)	北海道エゾシカ管理計画(第6期)目標達成のため、市町村界や捕獲制限地等における捕獲事業等を実施する	野生動物対策課	0	108,122	0	2.5	0.0	2.5	127,722	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0534		一般	動物愛護管理推進費(動物愛護管理センター運用実証事業)	動物愛護管理センター機能の強化・拡充に向け、関係団体との協議及び実証事業を実施する	自然環境課	0	7,309	7,309	0.7	0.0	0.7	12,797			
計						0	460,088	111,984	22.5	73.4	95.9				